

学年・教科・担当者	3年	音楽科	小池 基文
-----------	----	-----	-------

学期	月	学習内容	学習のねらい
1	6	言葉と旋律の関わりが醸し出す豊かさを求めて「花」 「鑑賞」ブルタバ	歌詞にこめられた思いや、音楽の味わいと音楽を形づくっている要素との関わりを理解して表現を工夫する 曲が生まれた背景を理解し、作曲者の思いを感じ取りながら、聴き深めたりする。
	7	日本の伝統音楽の味わい 「雅楽 越天楽」 曲種に応じた歌い方の工夫	雅楽の特徴について理解し、それらの特質や魅力を味わって聴く。 楽曲の特徴を感じ取り、それにふさわしい発声や歌い方を工夫して歌唱表現をする
2	8	「さまざまな曲想の表現」	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲想や魅力を生かして表現を工夫する。
	9		指揮を通して表現の工夫をする。
	10	日本伝統芸能に親しむ 「能」	音楽の特徴や魅力について理解しながら味わい、そのよさの根拠を言葉で説明したり、表現の工夫に生かしたりする。
	11	世界の諸民族の音楽	世界各地のさまざまな民族の伝統音楽の特徴を知覚・感受して、音楽の多様性を理解する。
	12	曲のよさをプレゼンテーションしよう 曲の特徴を生かして 「音楽を自由に構成しよう」	自分なりに曲の特徴やよさを捉え、聴き手に理解できるように伝える。また、お互いにプレゼンし合うことで、人によってさまざまな感じ方があることを発見する。 旋律の雰囲気や特徴を生かし、曲想を味わいながら表現を工夫する。

3	1	「箏曲を作ろう」 耳でたどる音楽史	時代ごとの主な作曲者とその作品等について学ぶ。 歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして表現を工夫する。
	2	混声合唱の深まり	
	3		

評価について	
評価の観点	評価の方法
①音楽への関心・意欲・態度	授業への取り組み 定期考査
②音楽表現の創意工夫	授業への取り組み 定期考査
③音楽表現の技能	授業への取り組み 定期考査
④鑑賞の能力	授業への取り組み 定期考査